

スタジオ夜話

第49話 スタジオ夜話 (番外編)

サウンドドラマの制作

(音の入り口) マイクロフォンⅡ

☆はじめに

ゴールデンウィークの季節です。今年は5月1日2日をうまく有休などが利用できれば最長9日間の休日となります。読者皆様はいかがお過ごしのご予定でしょうか？桜咲く季節も遅咲きの種類や北に位置する所を除いては来年を楽しむ時期になってしまいました。筆者の近所には御衣黄（ギョイコウ）桜がソメイヨシノの葉桜と並んで今（執筆時）満開です。めずらしい品種でソメイヨシノより遅く桜。花が緑色です。これからは新緑の美しい季節がやって来ますが気温変化が多い季節でもあります。ご健康をお祈りいたします。さて今回の夜話、前回に続きマイクロフォンのお話しです。スタジオ夜話的な展開でお話しします。お付き合いください。

☆マイクロフォンの分類 Ⅱ 使用目的からの分類？

前回マイクロフォンの分類についてその構造（発電機構）などから夜話的に文学的？な解説をいたしました。今回は使用目的から見た使い方について考えてみました。マイクロフォンの開発ではその使用目的によって開発されたものが多くあります。ある意味使用目的に特化された特殊なものと言っても良いかと思えます。ショートガンマイクなどは現在超指向性マイクロフォンとしての使用目的よりも汎用的な便利マイクロフォンとして使われているのが普通です。バウンダリーマイクロフォンなども現在ではワイアレスピンマイクロフォンの普及であまり使われなくなりました。スタジオ夜話

話番外編サウンドドラマ制作では今だに便利な汎用マイクロフォンとして使用しています。また防滴、防水マイクロフォン、ダミーヘッドマイクロフォンなども汎用としてよく使っていました。スタジオ夜話的にはMS方式のマイクロフォンやサラウンドマイクロフォンなど付属機器を必要とするシステムマイクロフォン（スタジオ夜話での呼称）も特殊用途として開発されたものですがかなり汎用的に使います。なぜ汎用的と言葉を重ねるのか、それは本来の開発目的とは少し外れる？使用法がサウンドドラマ制作では当たり前だからです。そこでサウンドドラマ制作では使用目的を整理してマイクロフォン収録を台詞、効果音、劇伴収録の3つに分類してマイクロフォンとの関係を考えてみました。

1) 台詞収録でのマイクロフォン使用を考える

ストレートトークって何ですか？マイクロフォンに対して真正面から30cmから50cmぐらいで普通に向かい合った会話程度の音量で話すこと（声を出すこと）のことでしょうか。アナウンサーがニュースを読む。ワイドショーで司会者やコメンテーターがニュース解説をする。確かにストレートトークと言えるでしょう。しかしこれはメディアによる伝達という行為で、会話するという行為の中では特殊な表現方法です。お気付きでしょうか？これは普通の会話とか台詞とか言葉による表現のこととは少し違うことのような気がします。サウンドドラマでの会話では台詞という性格上大きな声で感情を表すこと、声にならない声で表現することもあります。マイクロフォンワークというテクニックによっては小さ



御衣黄（ギョイコウ）新宿御苑にて

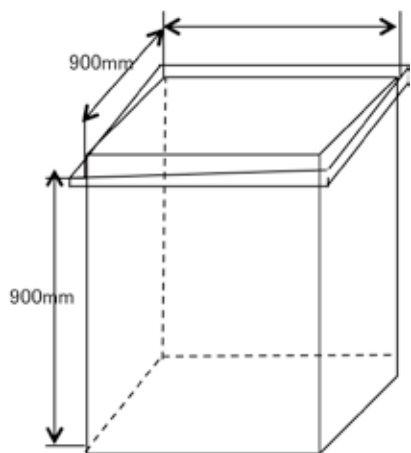
な声でもマイクロフォンの極至近距離で発声すればそれはそれなりの音量で収録することにもなります。スタジオ夜話サウンドドラマ制作では俗にいうストレートトークはナレーションのみを意味します。感情などの起伏をも表現する「語り」は含みません。別物です。その他独り言の表現を含め基本的にはすべて台詞であり必ずしも収録し易いものではないことが前提です。また台詞の収録にあたってはシュチエーション設定によって登場人物の数やその位置関係を含めた空間性が重要です。かつてラジオドラマは台詞など物語の意味的なものが最も重要と考え登場人物の位置の関係性などはあまり重要視されていませんでした。しかしサウンドドラマと称する以上こうしたことも重要視すべきというのが夜話的思考方です。芝居や世の中でも立ち位置が重要だとか・・・そこで台詞収録でのマイクロフォンの使用にあたっては「シュチエーション設定」をも重要視しています。例えば登場人物2人の会話では双指向1本あるいは各人一本でという発想ではなく聴取者に対してどういう位置関係で登場人物の台詞を聴かせるかという空間性にこだわった選択肢でのマイクロフォン選択、セッティングが重要となってきます。作家、演出家が音としての聴かせ方も考えてエンジニアとその具体的収録を実現することが望まれるのです。余談ですがストレートトークという言い方があるようですが英語的にはStraight-talking（音的にまっすぐ話す？は無い）I talk straight 直に話すという意味もあります。日本語的には直に話をするが正解ではないかと・・・I talk to Frank 率直に話す的な意味も。

おまけ 図解

おまけには様々な使い方があります。皆様の創意工夫を期待します。次回スタジオ夜話でも使い方の実例をご紹介します。

一坪スタジオブースを効果音スタジオに！

(その1) 万能収録BOX



- * 900mm X 900mm X 900mm の合板の箱です。板厚は 15mm ~ 重いと運搬が大変ですが丈夫です。筆者は台車を利用しています。作る時に図には上部枠しか描いていませんが全ての隅に垂木が入っています。丈夫で持ちやすいです。箱を作るときも作りやすい基本的には内部には全てスポンジ 120mm 厚が貼ってあります。吸音材スタジオ内で使用するため遮音は考えていません。同様に蓋もピタットできるように作ります。マイクケーブルの穴を忘れずに。筆者は 450mm サイズの箱も持っていました。
- * 小さいブースではそれなりに暗騒音は問題ないかと思いますがある程度の大きさスタジオでは暗騒音が NC で 20 以上のところもあり小音量音源を収録するのに便利しています。
- * 中に様々な素材の板を入れることによって反響などが変わります。
- * 中に薄いスポンジシートを敷きコンクリートや鉄板を敷きガラスの割れる音など工夫次第です。防水シートなども用意すると良いでしょう。筆者は一度防水シートを利用して水槽にしたのですが排水で想像を超える大変なことになる大騒ぎでした。その後ポリバケツや一斗缶をこの中で使っていました。
- * 読者の皆様はこの箱に大き目の車輪を付けること考えるかもしれませんがお薦めしません。収録作業によっては箱がポコポコと振動するからです。筆者はスタジオの床にリノなどを敷いて振動対策をするほどです。

(その2) 塩ビ管

通称：塩ビ管 正式には硬質ポリ塩化ビニル管と言います。その規格は多種多用途ですが効果音収録の便利道具としてはあまりこだわる必要はないと思います。サイズは筆者の知る限り一般的には 700mm 径が大きい方かと思えます。

使い方は基本マイクロフォンを突っ込んで使うのですが工夫次第、サイズや突っ込み深さで色々が使えます。長さを 800mm 以内にすれば万能収録BOXに収まります。また太さは一番太い塩ビ管に全て順に入れば一本で収納できるサイズを購入することをお薦めします。また継ぎ手など様々な部品も用意されています。

呼び径 mm	外径		外径の許容差		厚さ		概略 内径	1m 当り 質量 (g)
	基本 寸法	最大 最小	平均	最小	許容差			
50	60	±0.4	±0.2	4.1	+0.8	51	1122	
65	76	±0.5	±0.3	4.1	+0.8	67	1445	
75	89	±0.5	±0.3	5.5	+0.8	77	2202	
100	114	±0.6	±0.4	6.6	+1.0	100	3409	
125	140	±0.8	±0.5	7.0	+1.0	125	4464	
150	165	±1.0	±0.6	8.9	+1.4	146	6701	
200	216	±1.3	±0.8	10.3	+1.4	194	10129	
250	267	±1.6	±1.0	12.7	+1.8	240	15481	
300	318	±1.9	±1.1	15.1	+2.2	286	21962	

* サイズは mm の場合、A インチの場合は、B です。購入時はどちらかに揃えましょう。ex : 250mm の径の時は、250A と言います。

外径ではありません。呼び径といい内径に極近い呼称です。

B 社のサブウーハー、バズーカなども塩ビ管応用の範囲で制作出来るタイプのものです。工作精度の問題は別として管を利用したものではありません。マニア、アマチュアレベルでも案外使える工夫があるかも知れません。

(その3) と (その4) ポリタンクと一斗缶



一斗缶 (18L) ガロン缶とも言う



ポリタンクは 18L と 20L

(その5) 各種ガラクタ

* 一般的な一斗缶とポリタンクです。一斗缶にコック付きあるいはポリタンクにコック付きでもよいのです。要は水滴や水音を調整するためのコックがあるばよいのです。筆者はアウトドア用のコック付きポリタンクと一斗缶は上部の無いものをバケツ代わりに使用しています。

* 当然水音を収録するのに使うわけですが 70cm 四方位の自動助手席防水足トレイなどがあると便利です。また石油用のポンプや若干のホースなども用意しておくとも良い。

* 各種ガラクタ、思いつく範囲でどうぞ！しかし自然に増えていきます。



2) 効果音収録でのマイクロフォン使用を考える

サウンドドラマ制作の収録作業で最も手間がかかるのが効果音の収録です。台詞の収録では役者さんがその音源となるため制作者の意図によってその協力を得ることが可能です。大御所だから無理だというならキャストिंगしない方が無難です。昔NHKで森繁久彌氏や奈良岡朋子氏、高橋悦司氏らがラジオドラマ収録の時マイクロフォン相手に様々な動きや振りをつけ演技していた光景を思い出すとたとえ大御所と言われる人でも本物の役者さんは作品のため手を抜かないものだと思確信しました。さて効果音ではそうした協力は期待できませんまた単独の音を組み合わせると効果音を創るときその単独の音がどの様に組み合わせるのか想定しなくてはなりません。そこで重要なのが以前にもお話ししたマイクロフォンのセッティングなども含めマイクロフォンワークだと言ったことです。例えば多くの音の中の一つに焦点を合わせて行く、当然その時に周りの音にも変化が起こります周りの音も含めて収録するのか？焦点を合わせる音単体で収録するのか、焦点の当て方は？台詞との関係は？複雑多岐にわたる作業です。ここで大切なポイントは出来上りを想定していつも言う創意工夫が必要だということです。自然音などの環境音はその空間性を台詞などを含めたシュチエーション設定に担保することからはじめますがしかし創り上げる目的を持った効果音はその創意工夫によって出来上がり、マイクロフォンの選択はもちろんのこと焦点を当てる音が移動するのがあるいはマイクロフォンを動かすこともあり得ます。水の中に移動する必要などもあるかもしれません。そこで様々なマイクロフォンの選択肢が生じます。エンジニアの本領発揮が重要となります。今までの経験、またその経験値から

の予想に創意工夫を加えることで可能となる作業がここにあります。収録過程ではその後の加工を想定することも重要です。昨今では様々なエンコーダーを組み込んだDAWでの制作作業が一般的となってますが元音の収録作業はその成否を決定付けます。正に経験がものを言うことになりまますまた新たなトライも必要となるでしょう。想定外にならぬよう読者諸先輩の経験とエンジニア皆様の挑戦を期待します。

2-1) おまけ付きです。(前頁図参照)

だいぶ前になりますが効果音収録専用スタジオについてご紹介いたしました。スタジオには様々な音を出すガラクタ？や小さな水槽などが用意されていることのお話しでした。筆者勤務先であったスタジオではそうした設備的なことには恵まれかなりの我儘を実現させていただきましたが多くのスタジオではなかなか難しいことだと思えます。実際の音加工作業はDAW編集を中心に設備された施設を利用することが多くマイクロフォン収録にあたって使用するスタジオスペースはそれほど大きく取れないのが現状です。そこで筆者も以前使っていた小道具のご紹介をおまけでご紹介しようとした小道具は駐車場の1BOXの中などにも置くことができロケで役立つこともたまにあります。その1「万能収録BOX」基本的には9mmの合板でできたただの箱です。大きさは1?ぐらいが適当です。材料寸法の都合で筆者は3尺X3尺で作りました。その2「塩ビ管」排水設備用塩ビ管のことです。設備用塩ビ管には様々なサイズのものがあり直径500mmぐらいから75mmぐらいのものまで700mmの長さで数種類用意しておくくと便利です。その3「20Lポリタンク」その4「排水ドレンコック付角型一斗缶」その5「ガラクタ各種」すべての小道具が工夫次第で一坪ブースを

効果音スタジオに変身させます

3) 劇伴収録でのマイクロフォン使用を考える

音楽収録時のマイクロフォン使用です。音楽収録用マイクロフォンについては様々な考え方や音楽CD、音楽放送番組、など目的によって現在まで歴史のなかで専門家が話っています。どうぞご参考にしてください。スタジオ夜話サウンドドラマ制作ではあくまでも劇伴の収録という意味にこだわってお話をする予定です。劇伴収録という別枠でお話しを後日することにしていきます。ここではその意味だけをご理解ください。劇伴の大きな役割には情景描写、感情表現、ドラマの進行補助など多くの役割があります。また使用する楽器やその定位置の問題など取り巻く諸問題は多々あります。鑑賞用の音楽とはちがったアプローチで収録にあたる必要があることはすでに皆様ご存じのとおりです。そうしたことを踏まえ後日劇伴収録のお話しをしたいと思えます。

☆次回は

今回はマイクロフォンについてその使用目的からお話しをしました。今回はもう少し具体的なお話しと想っていたのですがおまけ部分以外は具体性に欠けてしまいました。次回は収録時のマイクロフォン選択とセッティングといった具体的お話しをしますのでまたお付き合いください。